

内海観光センター



外観

「内海観光センター」は、公衆トイレと管理室を備えた公共施設。夏季には、海水浴客で賑わう南知多町内海海水浴場に立地。施設が面して広がる美しい砂浜、千鳥ヶ浜は「日本の渚100選」にも選定されている。



展望デッキ

道路側からブリッジを介して直接アクセスできる展望デッキは、砂浜や夕日を眺めてなごみ、談笑する場所であると同時に、イベント開催時には観覧席としても機能する。

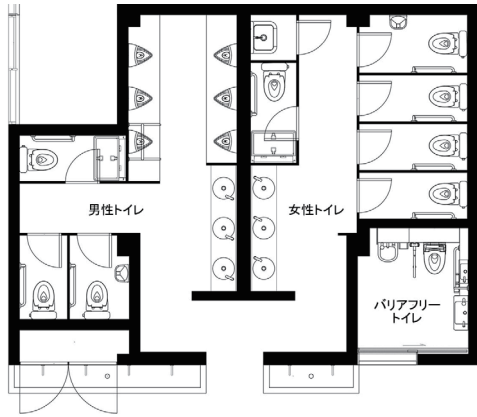


トイレ入口



砂地のなかでワイルドで独特な印象を放つ、コンクリート打放しの外観。砂の吹込みや塩害の影響が比較的に少ない東側に、トイレの出入口や手洗場を配置している。

トイレ図面



水まわりの特長

建物の特徴

「内海観光センター」は、夏季に海水浴客で賑わう愛知県南知多町内海海水浴場に立地する、公衆トイレと管理室を備えた公共施設。既存の観光センターを建替え、この場所ならではの風景体験をより強く引き出すことを目的に計画された。大きな特徴は、道路側からブリッジを介して直接アクセスできる展望デッキ。砂浜や夕日を眺めて、なごみ、談笑する場であり、イベント時には観覧席としても機能する、まちのプラットフォームとなっている。デッキ下部に公衆トイレと管理室を配置し、その周囲を半外部空間となる「砂の回廊」が取り囲む印象的な外観。床はあえて完成された仕上げとせず、周囲の砂がそのまま入り込むようにし、建築を砂浜から切り離すのではなく自然の延長として感じられるように意図されている。

トイレの特長

トイレは、世界で最も砂の粒が小さい砂浜といわれる千鳥ヶ浜(内海海水浴場)特有の厳しい設置環境を考慮。冬の強い西風による砂の吹込みや塩害を踏まえ、西風の影響が比較的に少ない東側にトイレ出入口や手洗場を配置。さらに、可能な限り閉じた空間とするため、開口は出入口のみとし、明るさを照明によって確保している。人気のある海水浴場でもあり、夏季は海水浴客が利用されるため、器具は公衆トイレとしての使いやすさに加え、維持管理のしやすさも重視して選定し、必要な機能を過不足なく整備。またお子様連れにも配慮し、男女別トイレにはベビーチェアやベビーシート、バリアフリートイレにはオストメイトに配慮して汚物流しを設置するなど、さまざまな利用者に配慮したトイレが完成した。

建築概要

名称	内海観光センター
所在地	愛知県南知多町大字内海字浜岡部地先
施主	南知多町
設計	株式会社ihrmk 一級建築士事務所
施工	角建工有限会社
竣工年月	2026年3月
敷地面積	1,200.0㎡
建築面積	114.0㎡
延床面積	183.4㎡
構造・階数	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造・地上2階

おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498BK
ウォッシュレット アプリコットP(温風乾燥付きエコリコモコン):TCF584IPR
普通便座:TC291V86W／棚付二連紙巻器:YH650
自動洗浄小便器:UFS910／スタンダード(ボウル一体タイプ):MC45
台付自動水栓:TLE26006J
コンパクト・バリアフリートイレパック:UADAK21R1A1AD*2WB
ベビーシート:YKA25N／ベビーチェア:YKA15S
パブリック用手すり:T112CL9、T112CU22



バリアフリートイレ

男女別トイレの隣に配置したバリアフリートイレは、車いすでアプローチがしやすく、必要な器具をすっきり納めたコンパクト・バリアフリートイレパックを設置。清掃性を考慮し、大便器は壁掛式を採用している。



女性トイレ
全体・洗面コーナー



トイレの出入口を1ヶ所としていることから、内部が丸見えにならないようパーティションを設置。洗面コーナーには、ボウルとカウンターに縦目がなく清掃性に配慮したボウル一体タイプを採用。自動水栓も完備している。



女性トイレ
大便器ブース



男女とも全ブースに、立ち座りをサポートするL型手すりを設置。さらに、ベビーシートを設置したブースとベビーチェアを設置したブースを1ヶ所ずつ設置。設備器具を、スタイリッシュなピクトグラムで掲示している。



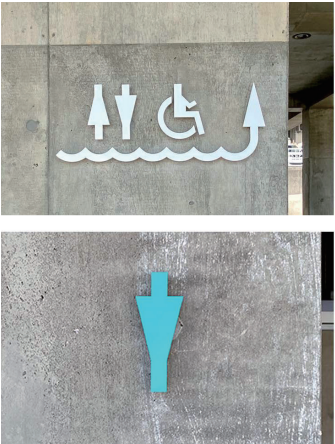
男性トイレ 全体

砂や塩の影響を避けるため、あえてトイレ内部に窓は設けていないが、閉じた空間でありながらも、暗さや閉塞感が出ないよう明るい天井照明を採用。各大便器ブース内にも、照明を設置している。



男性トイレ
小便器コーナー

ユニバーサルデザインに配慮し、低リップの自動洗浄小便器を採用し、1ヶ所に小便器用手すりを設置している。



サイン



トイレサインは、施設のイメージにあわせシンプルなデザインながらも、海辺を連想させるスタイリッシュなデザインを用いている。